

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い
ミュージアム都留からのお知らせ

企画展 甲州俳諧展〜甲斐俳壇を客観的にみる〜

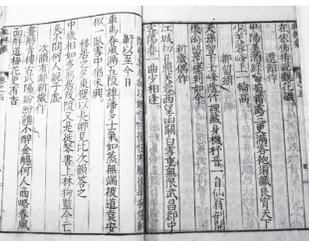
会期 2月14日(日)まで

江戸時代に入って太平の時代となり、街道が整えられるにつれて、人々が旅する機会が増えました。北斎の「富嶽三十六景」に先立って刊行された「絵俳書」は、江戸時代の風景画流行の先駆けでした。単なる絵ではなく、俳諧を組み合わせたところに風雅・趣向があり、俳文学の広がりがありました。また、甲州は江戸に近いこともあって、さまざまな俳人・文人が訪れました。

〔展示資料紹介〕
○『風流使者記』 荻生徂徠 著

荻生徂徠は江戸時代の儒学者で、元禄9年(1696)から將軍綱吉の側用人の柳沢吉保に仕えました。

宝永元年(1704)、甲府藩主徳川家宣が將軍徳川綱吉の後継者となり、柳沢吉保が次の甲府藩主となります。そこで、宝永3年(1706)吉



風流使者記(都留絹についての漢詩が掲載されています)

保の命により、徂徠は甲府藩の地理調査のため、江戸から甲府へ赴きました。この時の道々の見聞・風聞を漢詩を織り交ぜて記した紀行文です。

○『身延のみの記』 元政 著

元政は江戸時代初期の日蓮宗の僧で、近江(現在の滋賀県)彦根藩の武士でしたが26歳の時に出家し、京都深草の称心庵(現在の瑞光寺)に隠棲しました。和歌や漢詩文に優れ、芭蕉を始めとする江戸時代の文学者たちの憧れでした。

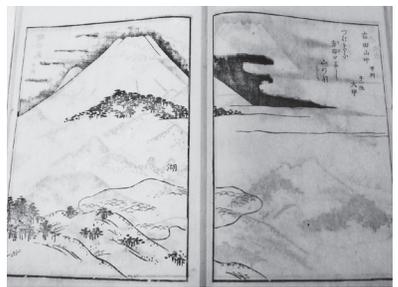
本資料は、万治2年(1659)に亡父の遺骨を納めるために、京都深草から甲斐身延山に参詣した時の紀行文です。和歌・詩文に溢れた内容であり、また、同行した79歳の母を気遣う様子が随所に表れます。結局、この旅は身延山からさ



身延のみの記(表紙)

らに江戸まで足を延ばすこととなり
○『百富士』版本5冊
河村岷雪が各地から眺めた富士の姿百景を描き、余白に詩や友の句を書き

込んだ俳書です。このような絵を主体とした俳諧の書を「絵俳書」といい、江戸中期以降大ブームとなりました。この「百富士」は北斎の「富嶽三十六景」(1831年ころ、刊行)にも影響を与えたとされています。



百富士(富士吉田市からの富士山)

「詩と油彩でなぞる いのちの賛歌」

日時 1月5日(火)～31日(日)
午前9時～午後5時
(最終日は午後3時まで)

会場 ミュージアム都留
問合せ ミュージアム都留
☎(45)8008

市民の皆さまの手による詩のパネルと油絵を展示します。

開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金です。

休館日 毎週月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

※1月1日(祝)～4日(月)は休館します。
問合せ ミュージアム都留☎(45)8008

情報未来館だより
初級パソコン教室

対象者 市内在住18歳以上でパソコンに触れたことがない方

日程 1月17日(日)、24日(日)

時間 午前9時30分～正午
午後1時～4時30分

内容 マウスとキーボードの使い方、ファイルの扱い、簡単な文書作成などを行います。

定員・参加費 15名 500円×2回

開館時間 午前9時30分～午後5時15分

休館日 1月1日(祝)～4日(月)、11日(祝)、18日(月)、25日(月)、29日(金)

申込・問合せ 情報未来館 ☎(43)1452

増田誠美術館企画展 『パリジャン百態②』

増田画伯が愛した街。パリの冬は、曇り空が多く日照時間も短くなります。また、1月下旬にはセールが行われ、大変な賑わいを見せます。

会期 2月28日(日)まで

会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日、1月1日(祝)～4日(月)

問合せ ミュージアム都留☎(45)8008



「オーベルジュ・ド・ヴィラージュ」